



平成29年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成29年1月30日

上場会社名 コネクシオ株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 9422 URL <https://www.conexio.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 井上 裕雄  
 問合せ先責任者 (役職名) 経営企画部長 (氏名) 神野 憲昭 (TEL) 03-5331-3702  
 四半期報告書提出予定日 平成29年2月10日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年3月期第3四半期の業績 (平成28年4月1日～平成28年12月31日)

(1) 経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年3月期第3四半期	191,215	△5.8	6,823	9.4	6,886	9.1	4,520	15.1
28年3月期第3四半期	202,974	△1.2	6,240	△6.6	6,313	△6.7	3,927	△4.1
	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益					
	円 銭		円 銭					
29年3月期第3四半期	101.05		—					
28年3月期第3四半期	87.79		—					

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
29年3月期第3四半期	92,168	32,075	34.8
28年3月期	96,912	29,850	30.8

(参考) 自己資本 29年3月期第3四半期 32,075百万円 28年3月期 29,850百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年3月期	—	22.50	—	25.50	48.00
29年3月期	—	26.00	—	—	—
29年3月期(予想)	—	—	—	26.00	52.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成29年3月期の業績予想 (平成28年4月1日～平成29年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	270,000	△4.0	9,210	0.1	9,300	0.1	5,700	△7.3	127.41

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

29年3月期3Q	55,923,000株	28年3月期	55,923,000株
----------	-------------	--------	-------------

② 期末自己株式数

29年3月期3Q	11,185,062株	28年3月期	11,185,062株
----------	-------------	--------	-------------

③ 期中平均株式数（四半期累計）

29年3月期3Q	44,737,938株	28年3月期3Q	44,737,999株
----------	-------------	----------	-------------

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期財務諸表に対する四半期レビュー手続が実施中です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 当四半期累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
(4) 追加情報	4
3. 四半期財務諸表	5
(1) 四半期貸借対照表	5
(2) 四半期損益計算書	7
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8
4. 補足情報	9
販売の状況	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善等により緩やかな回復基調で推移しましたが、海外経済の不確実性が高まっており、依然として先行き不透明な状況が続いております。

当社が事業活動を展開する携帯電話市場におきましては、新規契約に対する過度な優遇策の是正や消費者保護ルールの拡充が行われる中で、通信キャリア大手各社は長期契約者への優遇策として利用料金割引サービスの拡充やポイントサービスの強化を図るとともに、電気・保険など通信以外のサービスの提供を開始する等、顧客の囲い込みを推進しました。

このような事業環境において、当社の端末販売は、過度な優遇策是正による端末の実質購入価格の上昇を受け、年度当初に大きく落ち込みましたが、第2四半期以降、徐々に回復し、当第3四半期累計期間では販売台数193万台（前年同期比6.4%減）となりました。価格競争の沈静化に加えて、お客様の利用環境に合わせた提案型接客が定着してきたことにより、お客様一人あたりの収益が向上し、販売員の待遇改善や業務効率化を目指した新しいPOSシステム導入等による経費増を補い、増益を確保しました。

この結果、当第3四半期累計期間の業績は、売上高1,912億15百万円（同5.8%減）、営業利益68億23百万円（同9.4%増）、経常利益68億86百万円（同9.1%増）、四半期純利益45億20百万円（同15.1%増）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

#### (コンシューマ事業)

コンシューマ事業につきましては、従来型の携帯電話からスマートフォンへの買替促進やタブレット端末と光回線の販売に注力し、キャリア認定ショップでは、第3四半期会計期間の端末販売が前年同期を上回るまで回復することができました。お客様の家族構成に合わせた提案型接客やスマートライフを実感できる体験型接客を行い、お客様一人あたりの収益向上をはかるとともに、従来型のPOSレジに代わり新しいPOSシステムを全国の直営店に導入し、ショップ業務の効率化を進めております。

この結果、売上高は1,792億48百万円（前年同期比6.1%減）、営業利益は81億31百万円（同13.6%増）となりました。

#### (法人事業)

法人事業につきましては、端末販売の減少は続いておりますが、スマートフォンの運用管理業務に関わる受託業務（ヘルプデスク等）や法人向けソリューションサービスの販売が積み上がる等、ソリューション営業を強化してきた効果も少しずつ表れてきております。プリペイドカードの販売は、引き続き堅調に推移しており、IoTソリューションでは、12月に発売したIoTゲートウェイを用いた実証実験を、複数の企業で開始しております。

この結果、売上高は119億67百万円（前年同期比1.3%減）、営業利益は14億48百万円（同5.0%減）となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

### 資産、負債及び純資産の状況

#### (資産)

流動資産は前事業年度末に比べて42億73百万円減少し、707億44百万円となりました。これは、未収入金の減少35億47百万円、売掛金の減少33億11百万円、商品及び製品の増加26億35百万円等によります。

固定資産は前事業年度末に比べて4億70百万円減少し、214億23百万円となりました。これは、キャリアショップ運営権の減少5億4百万円等によります。

この結果、資産合計は前事業年度末に比べて47億44百万円減少し、921億68百万円となりました。

#### (負債)

流動負債は前事業年度末に比べて70億10百万円減少し、529億79百万円となりました。これは、未払金の減少32億95百万円、買掛金の減少32億69百万円、賞与引当金の減少19億20百万円、短期借入金の増加10億円等によります。

固定負債は前事業年度末に比べて40百万円増加し、71億13百万円となりました。これは、退職給付引当金の増加3億32百万円、その他の減少2億83百万円等によります。

この結果、負債合計は前事業年度末に比べて69億69百万円減少し、600億93百万円となりました。

#### (純資産)

純資産合計は前事業年度末に比べて22億24百万円増加し、320億75百万円となりました。これは、四半期純利益の計上による増加45億20百万円、配当金の支払による減少23億4百万円等によります。

この結果、自己資本比率は34.8%となりました。

## (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

当事業年度における当第3四半期累計期間の進捗率は、売上高70.8%、営業利益74.1%、経常利益74.0%、四半期純利益79.3%となりました。現段階で平成28年5月2日に発表した通期の業績予想に変更はございません。今後何らかの変化がある場合には、適切に開示してまいります。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期累計期間における重要な子会社の異動  
該当事項はありません。

(2) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用  
該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
該当事項はありません。

(4) 追加情報

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を第1四半期会計期間から適用しております。

## 3. 四半期財務諸表

## (1) 四半期貸借対照表

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成28年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,958	3,374
売掛金	46,020	42,709
商品及び製品	7,985	10,620
未収入金	14,809	11,261
預け金	130	177
その他	3,128	2,607
貸倒引当金	△13	△5
流動資産合計	75,018	70,744
固定資産		
有形固定資産	4,186	4,203
無形固定資産		
のれん	1,830	1,776
キャリアアシヨップ運営権	11,102	10,597
その他	504	471
無形固定資産合計	13,436	12,846
投資その他の資産	4,270	4,373
固定資産合計	21,894	21,423
資産合計	96,912	92,168
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	24,808	21,538
未払代理店手数料	10,579	10,162
短期借入金	2,500	3,500
未払金	13,402	10,107
未払法人税等	521	972
賞与引当金	3,637	1,717
役員賞与引当金	34	16
その他	4,507	4,966
流動負債合計	59,990	52,979
固定負債		
退職給付引当金	4,109	4,442
資産除去債務	425	416
その他	2,537	2,254
固定負債合計	7,072	7,113
負債合計	67,062	60,093

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成28年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,778	2,778
資本剰余金	9,779	9,779
利益剰余金	26,373	28,589
自己株式	△9,194	△9,194
株主資本合計	29,737	31,953
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	113	121
評価・換算差額等合計	113	121
純資産合計	29,850	32,075
負債純資産合計	96,912	92,168

## (2) 四半期損益計算書

第3四半期累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)
売上高	202,974	191,215
売上原価	169,827	156,593
売上総利益	33,147	34,621
販売費及び一般管理費	26,906	27,797
営業利益	6,240	6,823
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	3	10
店舗移転等支援金収入	75	47
貸倒引当金戻入額	7	7
その他	37	36
営業外収益合計	123	102
営業外費用		
支払利息	20	7
固定資産除売却損	14	18
不動産賃貸費用	9	6
その他	6	7
営業外費用合計	50	40
経常利益	6,313	6,886
特別利益		
固定資産売却益	1	0
投資有価証券売却益	11	—
特別利益合計	12	0
特別損失		
固定資産除売却損	6	17
減損損失	132	13
店舗閉鎖損失	32	47
特別損失合計	172	78
税引前四半期純利益	6,153	6,807
法人税、住民税及び事業税	1,689	1,798
法人税等調整額	537	489
法人税等合計	2,226	2,287
四半期純利益	3,927	4,520

## (3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

当第3四半期累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第3四半期累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## 1 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務諸表が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、携帯電話等の通信サービスの契約取次、契約者へのアフターサービスの提供及び携帯電話端末等の販売を行う、販売代理店事業を基幹事業としています。

したがって、商品販売及びサービス提供を行う顧客の属性から、「コンシューマ事業」、「法人事業」を報告セグメントとしております。

「コンシューマ事業」は、コンシューマ顧客に対する携帯電話等の通信サービスの契約取次、アフターサービスの提供及び携帯電話端末等の販売、スマートフォン利用のお客様ニーズに応えリレーションを強化するためのポータルサイト「nexi (ネクシィ)」の運営を行っております。

「法人事業」は、法人顧客に対する携帯電話等の通信サービスの契約取次、アフターサービスの提供及び携帯電話端末等の販売を中心としつつ、スマートフォンを利用したソリューションサービス、コンビニエンスストアに対するプリペイドカードの提供、インターネット接続サービスの提供及びIoTソリューションの提供を行っております。

## 2 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

当第3四半期累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期損益 計算書計上額 (注) 2
	コンシューマ事業	法人事業	計		
売上高	179,248	11,967	191,215	—	191,215
セグメント利益	8,131	1,448	9,580	△2,756	6,823

(注) 1. セグメント利益の調整額△2,756百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。

全社費用は、主に各報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 4. 補足情報

## 販売の状況

(単位：百万円、%)

		前第3四半期累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)	増減率
コンシューマ事業	売上高	190,852	179,248	△6.1
	営業利益	7,157	8,131	13.6
法人事業	売上高	12,121	11,967	△1.3
	営業利益	1,524	1,448	△5.0
調整額	全社費用	2,442	2,756	12.9
四半期損益計算書 計上額	売上高	202,974	191,215	△5.8
	営業利益	6,240	6,823	9.4